



行田の足袋を担う若き伝統工芸士

未栖智香子さん (36歳・城南)

昭和初期に全国の8割の生産量を誇り、現在は埼玉県の伝統的手工芸品の一つとして指定されている行田の足袋。その製造に従事している技術者の中で、熟練の技を持つ者にしか与えられない「埼玉県伝統工芸士」に、昨年の12月に認定されたのが未栖智香子さんです。

現在、祖父が創業した後藤足袋有限会社で足袋職人として働いている未栖さん。代表取締役を務める父親から「うちの会社を手伝ってみたいか」と誘いを受け、短大卒業後の20歳のときに入社しました。

幼いころから足袋に慣れ親しんでいましたが、実際に作るとなると話は別。職人としては全くの素人であったため、入社後すぐに香川県の大手足袋メーカーで修行を積むことになりました。「理屈で分かっている、実際に縫うと思いついかに出来ない」。初めのうちは自分にもどかしさを感じ、悔し涙を流すこともあったそ



うです。それでもひたすらミシンと向き合うことで、各工程で必要な縫製技術の基本を徐々に身に付けていきました。

行田に戻って来たのは、修行を始めてから7カ月後。そこで未栖さんが感じたのは、周りの職人との実力の差でした。「修行ではまだ基本しか習得していない。一人前の職人になるためには、卓越した技術を身に付けていくことが必要だ」。しかし、一朝一夕に技術を習得できるほど足袋づくりの世界は甘くありません。未栖さんは地道に足袋を縫い続けることで、職人として生きていくための技を体に染み込ませていきました。今では全ての工程作業を指導できる存在となり、周りからも信頼が寄せられています。

足袋職人になって15年がたつ未栖さんですが、50年以上のキャリアを持つ職人と比べると、まだまだ未熟さを感じるそうです。「今の課題は『速さ』を身に付けることです。この世界に身を置く限り、一生勉強ですね」と語るその表情からは、職人としてさらなる高みを目指していることが伺えます。

足袋の生産に当たり、口ごころから心掛けていることを尋ねると、未栖さんは「痛くない足袋」を作ることだと話します。「足の形は人それぞれ。誰もが快適に履ける足袋を作りたいです。50年、60年かかるかもしれませんが」と理想を語る若き伝統工芸士は、高い志を抱きながら今日もミシンの音を響かせます。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

俳句

- 富士見町 森 節子  
背を丸めよもぎ摘む人母に似し
- 清水町 柳沢 紀子  
春曆孫子揃いて古稀の膳
- 城南 橋本千枝子  
八十路とてまだまだまだと春の道
- 斎条 中村 英子  
みぞれ降り小鳥さまよい宿さがし
- 下中条 梶原 銃司  
列島は駅伝に沸く三が日
- 天満 青柳 欣吾  
老妻と豆撒きしあと福茶飲む
- 谷郷 伊東 典子  
長老の山羊に与える若菜摘む
- 持田 伊藤 洋子  
健康を最初に願う初詣
- 荒木 国島 初江  
佛壇の夫に年賀のあいさつを
- 長野 吉野 らん  
出初式パパ頑張れの声響く
- 藤原町 上原ミサ子  
シクラメン仲良く背のび鉢の中
- 荒木 藤田 明枝  
鉢一つ置き替へてみる春隣
- 桜町 長谷川さく  
春近し言葉だいに今日を生く
- 渡柳 川田 静江  
遠山や足どり軽く春隣
- 荒木 藤田 栄之  
雪便りファックス一枚せりあがる
- 持田 矢口 トヨ  
三日月のふたえに霞む夜明かな
- 向町 小沼 重蔵  
元旦を寿ぐ孫の勢揃い
- 城西 新井 禮子  
初鏡亡母の香りを身にまとう
- 向町 渡月 峯  
明日は勝て相撲太鼓の小正月
- 長野 野中せき子  
陽だまりの車の上で子猫ねる

(三沢 一水 監修)

はじめまして



平成26年5月生まれのお子さんを募集します

○3月2日月～31日月に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318)  
※応募要領は市ホームページをご覧ください。  
○応募者多数の場合は、4月6日月午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



★★★ 平成26年3月生まれのおともだち ★★★



飯塚 葵ちゃん(向町)  
平成26年3月5日生まれ  
父・雄大さん 母・瑠美子さん  
「いつもムチムチ 元気な笑顔!」



秋山 由宇ちゃん(荒木)  
平成26年3月28日生まれ  
父・雅宏さん 母・歩美さん  
「☆にっこり笑顔が チャームポイント☆」



小林 碧翔ちゃん(埼玉)  
平成26年3月24日生まれ  
父・亮さん 母・萌子さん  
「強く優しく たくましく!!なっってね!」



園木 芳美ちゃん(谷郷)  
平成26年3月5日生まれ  
父・正行さん 母・美穂さん  
「煌ちゃんと仲良く 元気に育ってね!」



小林 翔空ちゃん(持田)  
平成26年3月22日生まれ  
父・巧さん 母・理都さん  
「元気な子に育ってね!」



村田 瑛斗ちゃん(城西)  
平成26年3月20日生まれ  
父・和則さん 母・梨絵さん  
「お姉ちゃんと たくさん遊ぼうね!」

ぎょうだの会社を クローズアップ!!

株式会社ハイデイ日高 行田工場

低価格・高品質のメニューでお客さまを笑顔に



会社プロフィール

代表取締役会長 神田 正均  
代表取締役社長 高橋 均  
【事業内容】飲食店経営  
【住所】野3341-26

株式会社ハイデイ日高は、関東ではおなじみの中華料理店「日高屋」をチェーン展開している会社です。「行列のできるラーメン店のような個性的な味で勝負するのではなく、子どもからお年寄りまでおいしく食べられる味を目指しています」と話すのは、取締役執行役員(兼)行田工場長の吉田信行さん。その狙い通り、飽きのこない味・低価格・豊富なメニューで、お客さまの心をつかんでいます。

標に事業展開をしており、生産能力や生産技術などをさらに向上させるため、平成25年11月には行田工場を拡張。生産量は増設前の約2倍となった他、麺の食感を年間通して均一にできる「高性能真空ミキサー」や、効率的にたれを作ることができる「IH釜」など、新たな設備を導入しました。さらに、チルド環境も充実させたことで、より新鮮な状態で食材を各店舗に配送できるようになるなど、物流システムも新たに構築したのです。

最新設備を積極的に取り入れながら着実に成長している同社。「食品業界はお客さまの声を聞かなければ成長できません。お客さまの声に耳を傾け、誰もが満足していただけるメニュー開発にも力を入れていきます」と吉田さんは意気込みを語ります。これからも、お客さまが思わず笑顔になるようなおいしくて、しかも低価格な料理を提供することに情熱を注いでいくこととしていきます。

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。 特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。